

## 株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂7-10-11 電話 0120-232-711 (通話料無料)
[手続き書類のご請求方法]	音声自動応答電話によるご請求 0120-244-479 (通話料無料) インターネットによるダウンロード <a href="http://www.tr.mufg.jp/daikou/">http://www.tr.mufg.jp/daikou/</a>
上場金融商品取引所 公告の方法	東京証券取引所市場第1部 電子公告により行う 公告掲載URL <a href="http://www.aspir.co.jp/koukoku/6412/6412.html">http://www.aspir.co.jp/koukoku/6412/6412.html</a> (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。)

### ■お知らせ

#### 1. 株券電子化によるご注意

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、単元未満株式等の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 配当金の口座振込のご指定につきましては、お手続きは配当金振込指定書を各口座管理機関を経由してお届けいただくこととなります。従来同封いたしておりました当社専用の「配当金振込指定書」は同封を取りやめしております。振込指定のお手続きにつきましては詳しくは各口座管理機関にお問い合わせください。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

#### 2. 配当金計算書について

配当金の口座振込をご指定の方と同様に、「配当金領収証」により配当金をお受取りになれる株主様宛にも「配当金計算書」を同封いたしております。配当金をお受取りになった後の配当金額のご確認や確定申告の資料としてご利用いただけます。

## 株主の皆様の声をお聞かせください

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力を願いたします。

- アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。
- ご回答いただいた方の中から抽選で10名様に「大江戸喧嘩独楽」を進呈させていただきます。



下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。



<http://www.e-kabunushi.com>  
アクセスコード 6412

いいかぶ

検索

Yahoo!, MSN, exciteのサイト内にある検索窓に、いいかぶと4文字入れて検索してください。



空メールによりURL自動返信

kabu@wjim.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。



携帯電話からもアクセスできます

QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、右のQRコードからもアクセスできます。



※本アンケートは、株式会社エーツーメディアの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社エーツーメディアについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>)  
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」TEL:03-5777-3900(平日 10:00~17:30) MAIL:info@e-kabunushi.com

**HEIWA**  
HEIWA BUSINESS REPORT 2010  
第42期 年次報告書 2009年4月1日~2010年3月31日

「完成度の高い製品を継続的に市場へ投入し  
ブランド力の向上を図り、  
シェアの拡大を目指してまいります。」



代表取締役社長 石塀保寿

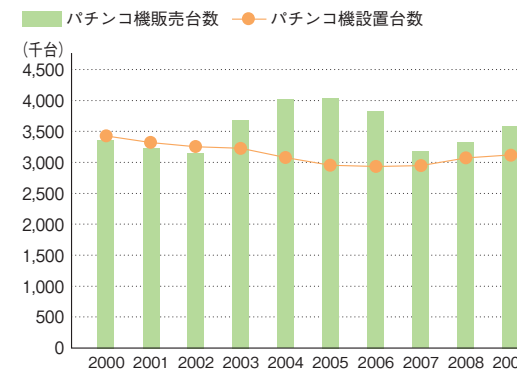
株主の皆様には日頃より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。当社グループの第42期(2009年4月1日～2010年3月31日)の事業概況をご報告いたします。

Q1 当期の事業環境は  
いかがでしたか？

当期における国内経済は、世界的な金融危機の影響から厳しい状況が続いておりましたが、当期後半には海外経済の改善や緊急経済対策の効果等を背景に景気は緩やかに持ち直しつつあります。

当社グループを取り巻く遊技機業界の動向は、パチンコホールの営業形態として、低貸玉営業が幅広く普及したことや、各遊技機メーカーから新規性のあるゲーム性能を有した遊技機の販売が活発化したことにより、近年減少していた遊

図1 パチンコ機市場の動向

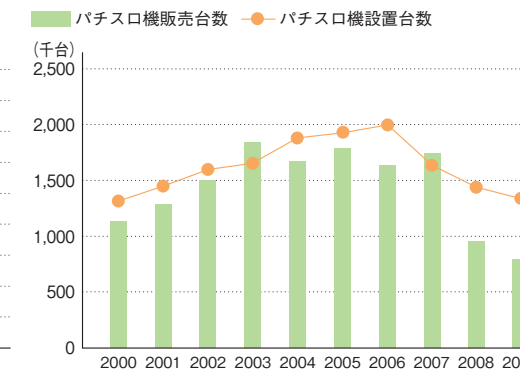


技参加人口に持ち直しの動きが見られました。

一方、パチンコホールの経営環境を見ると、2010年4月に警察庁より発表された統計資料によれば、2009年12月末時点での店舗数は、前年と比べ2.2%減少し12,652店舗となり長期減少傾向が続いております。また、遊技機設置台数は、前年と比べ1.3%減少し4,467千台となったものの、一店舗当たりの設置台数は353.1台となり、前年より0.9%増加し、店舗の大型化と中小規模店の減少傾向が継続しております。

遊技機の販売動向は、パチンコ機市場では、設置台数が増加傾向にあり、市場全体の販売台数についても堅調に推移いたしました。パチスロ機市場では、2004年7月に施行された遊技機規則改正の影響により2006年以降設置台数の減少が続いており、市場全体の販売台数は依然として低調に推

図2 パチスロ機市場の動向



移しております。また、パチンコホール経営において、低貸玉営業の普及による収益性の低下等が影響し、新機種選定の基準は年々厳しいものとなっており、各遊技機メーカー間の販売競争は激しさを増しております。

Q2 当期の業績については  
いかがでしょうか？

当社グループは、2007年8月の株式会社オリンピアとの経営統合以来、「開発プロセス及び手法の見直し」、「開発体制の強化」、「人員配置の適正化」等を経営課題として掲げ、パチンコ機開発に軸足を置いた開発体制の整備を推し進めてまいりました。また、当期においては2009年12月1日をもって、株式

## 株主の皆様へ

会社オリンピアの営業本部、開発本部及び製造本部の事業に関して有する権利義務の一部を当社に承継する会社分割を実施し、当社グループ内における更なる経営資源の最適化、収益基盤の強化に向け、取り組んでおります。

当期における当社グループの業績は、セグメント別に見ると、パチンコ機事業におきましては「石原裕次郎 嵐を呼ぶ男」、



「南国育ち」、「めぞん一刻」、「ルパン三世 徳川の秘宝を追え」等、当初販売計画を1シリーズ上回る計9シリーズを発売し、累計販売台数170千台、売上高は50,827百万円となりました。パチスロ機事業におきましては、「めぞん一刻～あなたに会えて、本当によかった～」、「鳥唄」、「元祖!大江戸桜吹雪」等、当初販売計画どおりの計7機種を発売し、累計販売台数44千台、売上高は11,714百万円となりました。また、その他の事業として、情報配信サービス等を行い、売上高は786百万円となりました。これらの結果、当期の連結業績は、期初業績予想を下回ったものの前期より増収、増益となり、売上高63,328百万円、営業利益3,740百万円、経常利益13,517百万円、当期純利益11,947百万円となりました。

### Q3 それでは今後取り組むべき課題についてはどのようにお考えでしょうか?

先に述べましたとおり、当社グループを取り巻くパチンコ機・パチスロ機市場は、各遊技機メーカー間の競争が激しさを増しており、今後もこうした傾向は続くものと思われれます。

そのような中、当社グループは、こうした市場環境の変化に対応すべく、引き続き「研究開発の強化」、「効果的なりユース設計」、「開発・調達・生産の効率化」を図り、競争優位性を構

築してまいります。特に「研究開発の強化」においては、「新規性・新機能の追求」、「稼動を重視した機種開発」の2点について取り組みを強化します。この取り組みにより、多様な出玉性能、ゲーム性等を総合的に兼ね備えた製品、市場において長期的に安定した稼動が見込めるエンターテインメント性の高い製品の開発を実現してまいります。また、これらの製品を継続的に市場へ提供することで、当社グループの製品に対する信頼性及びブランド力の向上を図り、シェアの拡大を目指してまいります。

### Q4 最後に、株主の皆様へのメッセージをお願いいたします。

来期の見通しですが、売上高76,700百万円、営業利益9,200百万円、経常利益18,400百万円、当期純利益14,600百万円を見込んでおります。

来期の市場環境も依然として厳しい状況が続くものと思われれますが、先ほど述べました取り組みを行うことにより、企業価値の増大に努め、株主の皆様のご負託にお応えしてまいりる所存です。

当社グループは、中長期的な観点から研究開発力の強化への投資、設備投資、情報化投資等を積極的に実施することにより、企業価値の増大を図るとともに、株主の皆様への利益還元を

## To Our Shareholders

安定的、継続的に充実させていくことを利益配分に関する基本方針としており、その方針のもと、当期の配当金につきましては、年間で1株当たり50円とし、来期の配当金につきましても、年間で1株あたり50円を予定しております。

株主の皆様におかれましては、引き続き変わらぬご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。



# Special Report

ニューマシン 開発者の声

## CR ルパン三世 徳川の秘宝を追え



©モンキー・パンチ/TMS・NTV

ルパン三世シリーズ最新作となる本機では、テレビアニメスペシャルとのコラボレーションで実現した完全オリジナルストーリーが展開。かつてない臨場感を生み出す「ムービングフラッシュゲート」や「3連サーチライト」等さまざまな演出が、プレイヤーを魅了します。

VOICE 「ルパン三世ファンとパチンコファンの両方に楽しんで欲しかった」

プロジェクトリーダー 上野 晃裕



今回の作品は、ルパン三世ファン、パチンコファン、どちらのファンにも楽しんでもらえる機種に仕上げるといことが、開発の基本コンセプトでした。

そのため「ルパン三世のファンを納得させる」、「大当たりした瞬間に最高の爽快感を提供する」という2つの点を特に意識して開発しました。

まず「ルパン三世のファンを納得させる」には、例えば「次元」や「五ェ門」といった非常に個性が強くファンも多いキャラクターが、今までの作品ではあまり活躍できていなかったと感じていました。そこで今回はキャラクターの立ち位置をほぼ同等に設定することで、幅広いルパン三世ファンの要望に沿えるよう

に心掛けました。更に、ルパン三世ファンに馴染み深い名シーンを多く取り入れることで、その演出を見るまでは遊技をやめたくないという心境に導くようにしました。

次にパチンコファンが納得する「大当たりした瞬間に最高の爽快感を提供する」ことについては、光と音を効果的に液晶演出と組み合わせることで、プレイヤーへ大当たりの喜びを明確に伝えられるように努めました。特に大当たりした瞬間に「三連サーチライト」が点灯し、「印象に残る効果音、専用BGM」と共に、絶妙なタイミングで「大当たり映像」が流れる一連の演出は、プレイヤーの方々に爽快感を感じていただけるものに仕上がったと思います。

また、長い遊技を通じて初めて体感することのできる感動のエンディングを付加することで、プレイヤーに目的意識や達成感を感じてもらえるような演出にしました。

## ドラマチックパチスロ めぞん一刻 ～あなたに会えて、本当によかった～



©高橋留美子/小学館

高橋留美子原作の人気作品がパチスロとなって登場。2006年にリリースされた人気機種の後継機となる本機は、前作でも好評であったドラマチック・エピソード演出を搭載。原作の世界観を忠実に再現し、ファンからも高い支持を得ています。

VOICE 「前作を超える高いクオリティを目指して、決して最後まで妥協はしませんでした」

プロジェクトリーダー 小野 洋一



前作のゲーム性に対するプレイヤーの評価が好評だったこともあり、開発当初からプロジェクトメンバー全員が「前作からのパワーアップ」を意識して、こだわりのあるものに仕上げることが「本機の一番のこだわり」だと感じています。

大型液晶を最大限に活用した「ドラマチック・エピソード演出」、リール制御を利用した「スペシャルラウンド演出」、出玉の大きな魅力である「ウェディングモードシステム」、好評だったオリジナルの歌詞付きサウンドの追加等はそれらの一例です。特に前作から継続している「ドラマチック・エピソード演出」は、もっとも力を入れたところであり本機の見所だと思います。その他にも、原作での名シー

ンの一つである「桜の下で」の演出(エンディングボーナス中)は前作では使用できなかったものなので、個人的な思い入れも強く、ぜひ見ていただきたい演出の一つです。演出を作成するうえで、映像のクオリティを向上させることも欠かせません。ハード的な制約もあり、クオリティの高い画像を使用するとどうしても負荷が大きくなってしまいますため、液晶制御担当やCG制作担当と試行錯誤する毎日でした。最終的には制御プログラムを工夫したり、その他の部分で負荷を軽減することでクオリティの高い映像演出に仕上がりました。

また、わかりやすい演出、ゲーム設計を心掛けたことにより、初めてプレーされる方にも楽しんでいただける内容に仕上がったと感じています。

●パチンコ機事業

当社グループの状況

パチンコ機事業におきましては、「石原裕次郎 嵐を呼ぶ男」、「南国育ち」、「めぞん一刻」、「ルパン三世 徳川の秘宝を追い」等、当初販売計画を1シリーズ上回る計9シリーズを発売いたしました。販売計画200千台に対し累計販売台数170千台、売上高は50,827百万円（前年同期比62.9%増）となりました。

来期の見通し

パチンコ機市場におきましては、設置台数は増加傾向にあり、市場全体の販売台数についても堅調に推移しております。しかしながら、パチンコホールを取り巻く環境が依然として厳しく、パチンコホールの新機種選定の基準はより慎重になることが予想されるため、来期には市場全体での販売台数は軟調に推移することが見込まれます。

パチンコ機事業における来期販売計画は、第2四半期までに5シリーズ、通期では8シリーズの販売を予定しております。また、販売台数は、第2四半期までに104千台、通期で193千台を計画しており、当事業における売上高は58,600百万円（前年同期比15.3%増）を見込んでおります。

●その他事業

その他事業におきましては、情報配信サービス等を行い、売上高は786百万円（前年同期比27.7%減）となりました。

●パチスロ機事業

当社グループの状況

パチスロ機事業におきましては、「めぞん一刻～あなたに会えて、本当によかった～」、「島唄」、「元祖！大江戸桜吹雪」等、当初販売計画どおりの計7機種を発売いたしました。しかしながら、当事業を取り巻く市場環境が依然として厳しく、当第4四半期において、市場の評価が一部の有力機種に集中し、販売台数が低調に推移したため販売計画80.5千台に対し累計販売台数44千台、売上高は11,714百万円（前年同期比32.7%減）となりました。

来期の見通し

パチスロ機市場におきましては、2004年7月に施行された遊技機規則改正の影響により2006年以降設置台数の減少が続いており、市場全体の販売台数は依然として低調に推移しております。来期についてもこの傾向は継続するものと予想されます。

パチスロ機事業における来期販売計画は、第2四半期までに3機種、通期では5機種の販売を予定しております。また、販売台数は、第2四半期までに40千台、通期で63千台を計画しており、当事業における売上高は17,400百万円（前年同期比48.5%増）を見込んでおります。

■来期の見通し

来期の業績につきましては、売上高76,700百万円、営業利益9,200百万円、経常利益18,400百万円、当期純利益14,600百万円と予想しております。なお、逆取得の会計処理により、通期におきまして営業外収益として負ののれん償却額8,602百万円を計上しております。

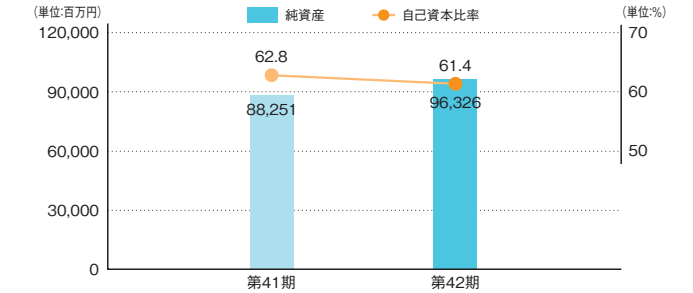
	(単位:百万円)	
	2011年3月期 (予想)	2010年3月期 (実績)
売上高	76,700	63,328
営業利益	9,200	3,740
経常利益	18,400	13,517
当期純利益	14,600	11,947

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	第41期 (2009年3月31日現在)	第42期 (2010年3月31日現在)
●資産の部		
流動資産	76,034	92,301
固定資産	64,435	64,449
有形固定資産	31,086	31,622
無形固定資産	163	108
投資その他の資産	33,186	32,717
資産合計	140,470	156,750
●負債の部		
流動負債	10,507	27,621
固定負債	41,711	32,802
負債合計	52,218	60,424
●純資産の部		
株主資本	88,766	95,773
資本金	16,755	16,755
資本剰余金	53,063	53,063
利益剰余金	19,892	26,899
自己株式	△944	△945
評価・換算差額等	△544	487
新株予約権	29	65
純資産合計	88,251	96,326
負債純資産合計	140,470	156,750

純資産・自己資本比率



連結株主資本等変動計算書

(2009年4月1日から2010年3月31日まで)

(単位:百万円)

	株主資本					評価・換算 差額等	新株 予約権	純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計			
2009年3月31日 残高	16,755	53,063	19,892	△944	88,766	△544	29	88,251
連結会計年度中の変動額								
剰余金の配当			△4,940		△4,940			△4,940
当期純利益			11,947		11,947			11,947
自己株式の取得				△0	△0			△0
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)						1,031	35	1,067
連結会計年度中の変動額合計	—	—	7,007	△0	7,006	1,031	35	8,074
2010年3月31日 残高	16,755	53,063	26,899	△945	95,773	487	65	96,326

## 連結財務諸表

## Consolidated Financial Statements

## 会社概要・株式の状況

## Corporate Data & Stock Information

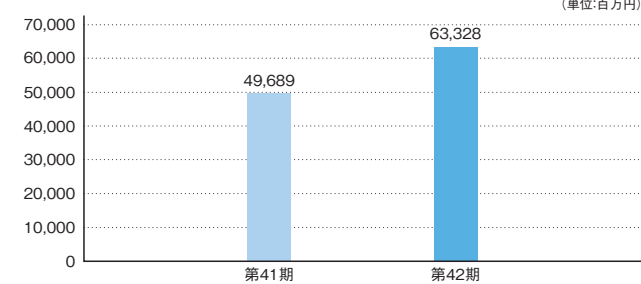
(2010年3月31日現在)

### 連結損益計算書

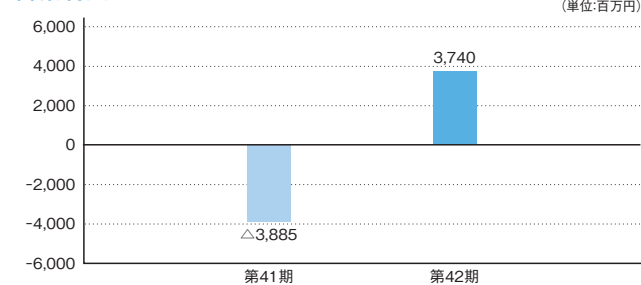
(単位:百万円)

科目	第41期 (2008年4月1日から 2009年3月31日まで)	第42期 (2009年4月1日から 2010年3月31日まで)
<b>売上高</b>	<b>49,689</b>	<b>63,328</b>
売上原価	33,633	38,330
<b>売上総利益</b>	<b>16,056</b>	<b>24,997</b>
販売費及び一般管理費	19,941	21,256
<b>営業利益又は営業損失(△)</b>	<b>△3,885</b>	<b>3,740</b>
営業外収益	10,724	10,658
営業外費用	837	882
<b>経常利益</b>	<b>6,001</b>	<b>13,517</b>
特別利益	285	15
特別損失	2,786	574
<b>税金等調整前当期純利益</b>	<b>3,499</b>	<b>12,958</b>
法人税、住民税及び事業税	234	1,458
法人税等調整額	1,553	△446
<b>当期純利益</b>	<b>1,711</b>	<b>11,947</b>

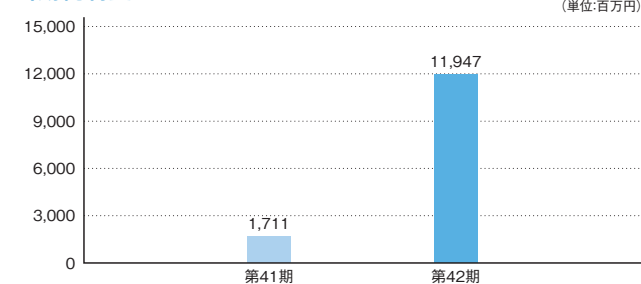
### 売上高



### 営業利益



### 当期純利益



### 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	第41期 (2008年4月1日から 2009年3月31日まで)	第42期 (2009年4月1日から 2010年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	9,225	21,769
投資活動によるキャッシュ・フロー	3,925	△16,280
財務活動によるキャッシュ・フロー	△36,127	△5,449
現金及び現金同等物に係る換算差額	101	20
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△22,874	59
現金及び現金同等物の期首残高	61,785	38,911
現金及び現金同等物の期末残高	38,911	38,971

### 会社概要

商号	株式会社 平和 (英文社名:Heiwa Corporation)
本社	〒110-0015 東京都台東区東上野二丁目22番9号
URL	http://www.heiwanet.co.jp/
創業	1949(昭和24)年
設立	1960(昭和35)年
資本金	167億5,500万円
役員	代表取締役社長 石橋保彦 代表取締役副社長 嶺井勝也 専務取締役 諸見里敏啓 常務取締役 町田徹 取締役 吉野敏男 取締役 池本泰章 常勤監査役 川野廣二 監査役 佐藤武志 監査役 遠藤明哲 監査役 山田公之

### 事業内容

パチンコ機の開発・製造・販売  
パチスロ機の開発・製造・販売

### 事業所

本社、工場(伊勢崎)、北海道、仙台、高崎、東京、名古屋、大阪、広島、福岡 他20営業所

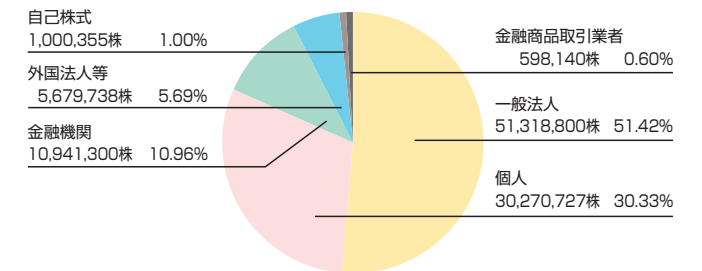
### 取引銀行

三菱東京UFJ銀行、みずほ銀行

### 株式の状況

発行可能株式総数	228,903,400株
発行済株式の総数	99,809,060株
株主数	17,085名

### 株式の所有者別状況



### 株価チャート(月足)

